

2021年
夏号

加戸病院通信 第76号



ハンド イン ハンド

hand in hand



特定医療法人弘友会
加戸病院

〒791-3301 愛媛県喜多郡内子町内子 771 番地 TEL:0893-44-5500 FAX:0893-44-3300
E-mail:koyukai@kato-hp.jp URL:http://kato-hp.jp/



■ ドクターシリーズ ■ 心不全？

加戸病院 常勤医師
一般内科・総合内科

なかぼう まり
中坊 麻利

心不全という言葉はよく聞きますね。しかし、意味も分からずに使っている人が多いと思います。急性心不全で亡くなるということは、急に心臓に病気を発症して、循環が保てなくなる状態になったので亡くなったということです。

実は、全国的に見ても愛媛県は心不全の患者さんの率が高いそうです。

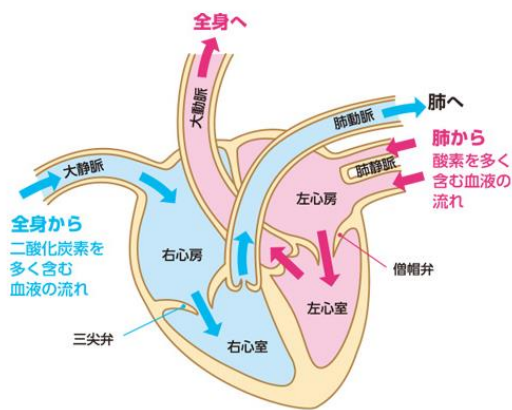
それでは、心不全とはなんのでしょうか？学会の定義は以下です。

「何らかの心臓機能障害、すなわち、心臓に器質的および/あるいは機能的異常が生じて心ポンプ機能の代償機転が破綻した結果、呼吸困難・倦怠感や浮腫が生じ、それに伴い運動耐容能が低下する臨床症候群」

難しいですね。「心臓機能障害すなわち心臓に器質的および/あるいは機能的異常が生じて」つまり何が原因で心臓に異常を起こすということです。わかりやすいのは心筋梗塞かもしれません。他にも心臓に異常を起こす原因はたくさんあります。



原因が何であれこういう病態があると、「心ポンプ機能の代償機転が破綻し」やすくなります。右の図を見て血液の流れと心房と心室が交互にポンプとして動いているのが心臓だと理解すると、①4つの弁の開閉がしなやかにできない場合(閉じなかったり弁が固くなって開きにくいなど)②不整脈が起きて心房と心室の収縮のタイミングが合わない場合③静脈から帰ってくる血液の量が多すぎたり少なすぎたりする場合④血圧が高く心臓がポンプで押し出しても全身に送り出せず、心臓から血液が出ていけない場合



⑤心臓そのものの動きが悪い場合などいろいろなパターンで心不全がおこることが考えられると思います。心臓がエコー（超音波検査）でよく動いているからといって、心不全にならないということはないのです。高齢者でよくある心不全のパターンは、エコーで心臓の動きはいいように見えますが、心臓が固くなっているという病態です。すると、ポンプとしての心臓が固い風船になっていて膨らまないので血液が十分に送り出せません。これも、心不全になる大きな要因です。

こういう様々な病態によって、症状が現れるということが心不全です。病名というより病態です。

心不全はどうやって診断するのでしょうか？

診断は、症状と身体所見、聴診とレントゲンや CT などの画像、心電図から心不全の可能性を判断します。これらのものから心不全の可能性が疑われた上に、BNP 検査やエコーを含めて検討して心不全の診断になります。よく BNP 検査や proBNP 検査の採血でのみで心不全というのをみますが、BNP 検査は補助材料であり、経過をみるための指標です。高くても症状がなければ、積極的な治療の必要がない場合もあります。エコーはどのような病態の心不全かを判断するための材料にも有用で、病態把握と治療方針を検討する材料にもなります。病態の経過観察に使うこともあります。

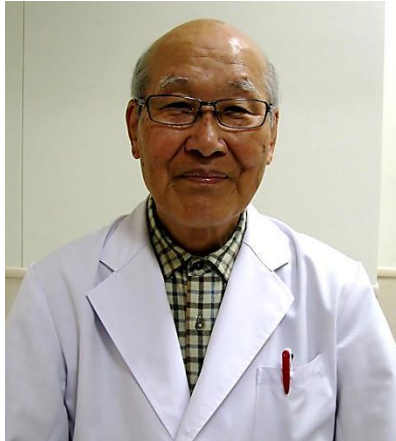
心不全の診断は慣れないと難しいですし、治療してもどこで急性期治療終了と判断するか難しいなど経験を積んでいても思います。特に高齢者は訴えがない分難しいです。

急性期の治療は利尿を中心に行いますが、不整脈を助長することや利尿剤が効きにくくなることもあるので電解質異常に注意が必要です。そのほかもちろん vital (脈拍・呼吸・体温・血圧) も大事です。急性期治療が終わると、その後維持できるように少しずつ内服を調整していきます。急に内服を一度に導入すると極めて危険です。

心不全は一度発症するとそれによる入院をするたびに予後が悪くなるということが知られています。つまり、心不全を発症・再発させないことが重要で、再増悪した場合はなるべく早く手をうたないと後になればなるほど心不全の治療は難航し改善が難しくなります。他の疾患で入院したとしても、高齢者は全員が心不全患者とみて、増悪させない上手な治療と患者さんの日々の観察が必要だなということをこれまでたくさんの患者さんたちから教えてもらいました。ここを怠ると大体結果が悪くなり結局患者さんだけでなく働いているスタッフも幸せになれないので、常々患者さんのことを思いつつ診療するよう心がけています。

追悼

しばたたいほう
柴田大法医師



柴田大法 先生

略歴

- S33年 京都大学医学部医学科卒業
- S43年 京都大学医学博士
- S56年 加戸病院非常勤医師
- S62年 愛媛大学医学部教授
- H07年 愛媛大学医学部付属病院長
- H11年 愛媛大学名誉教授
- H11年 市立宇和島病院院長

加戸病院整形外科医師 柴田大法先生は、令和3年3月19日(金)にご逝去されました。ここに生前のご厚誼に深く感謝するとともに、謹んでお知らせいたします。

柴田大法先生の思い出

加戸病院 常勤医師
整形外科・リハビリテーション科医長

きど ますむね
城戸 益宗

柴田大法先生は令和3年3月19日神戸市で天寿を全うされました。六十二年の医師人生であり、享年八十七歳でした。先生は、令和2年の秋、外来待合室に貼ってある自分の紹介の張り紙を見て、「また戻って診察するから、剥がさないで」と職員へ伝えたそうです。今しばらくはそのまま掲示させていただいています。

先生は昭和56年、愛媛に赴任してから足掛け四十年の長きにわたり、加戸病院で診察、手術を行われました。

昭和62年には愛媛大学整形外科の教授となり、私もお世話になりました。特に骨軟部腫瘍手術の権威であり、脊椎手術、人工関節手術等を行われていました。

さて外来待合室にずっと柴田先生の「仏心仏手」の皿が飾っていたのを覚えておられるでしょうか。先生の座右の銘のようです。先生は大変優しい先生でしたが、手術には厳しく「鬼手仏心」といった手術をする外科医でありました。それをさらに越えて「仏心仏手」を心がけておられました。厳しい目の中には、患者を救う仏のような大慈悲の心の^{ほのお}焔が燃えていました。強くあること、優しくあることを教えられました。

加戸病院初代院長の加戸弘二先生と柴田先生は京都大学の同期生でありました。二人のほんとうに仲の良い姿を沢山見させていただきました。

大洲の鵜飼も大好きでした。ある日の鵜飼の屋形船でのこと。柴田先生と弘二先生と一緒に舟に乗り、私は全く別のグループの舟に乗っていました。その時柴田先生の大きな声が肱川に響きました。「その舟は傾いている」と無邪気にこちらの舟に向かって叫ぶのです。実際に少し傾いているのですが。

加戸病院の忘年会になると、それはもう上機嫌でした。宴席の終わり頃になると弘二先生と一緒にマイク真木の「バラが咲いた」を唄われている姿は圧巻でした。

先生の一番の趣味はゴルフでした。晩年神戸市に住まわれたのも通いやすいゴルフ場があったためようです。整形外科には医局コンペというゴルフ大会があり数十名の参加がありました。このゴルフは同門会員の親睦を深めることが第一の目的でしたが、なぜか先生が一番優勝していました（もちろん実力でです）。

加戸病院で手術すること、診察することをライフワークとしていました。そして、我々と手術することを大変楽しみにしておられました。その思い出が本当に深い、加戸病院の外来スタッフの提案により、八十歳を越えての誕生会を開いてもらったことを大変喜んでいました。今見てもその記念写真は輝きに満ちています。

お酒の席もお好きでした。1990年代はディスコ全盛時代ですが、我々が半ば冗談ですすめると、そのお立ち台にスツと上がり踊られました。

愛媛大と浜松医大との間には医局対抗野球の定期戦がありました。ある年のことです。我々が浜松に遠征して1日目にはゴルフ、学術研究会、レセプション（宴会）があり。2日目にはメインイベントの野球対抗戦があります。最後に大食い大会で終わりです。ゴルフでは柴田先生が優勝し私は最下位。夜のレセプションでは、4番とエースがお酒を勧められるからという理由で、私は4番に抜擢されなんとかその夜はもちこたえました。しかし、肝心の野球では、投手の井上哲郎先生（浜松医大教授）に三振する有様でした。それなら柴田先生も代打で登場するも打てず、野球は敗戦しました。しかし、最後にはしっかり「鰻の蒲焼の早食い競争」にだけはチーム戦で、愛大が勝利しました。

先生のその頃の得意曲は吉幾三の「酒よ」であったかと思います。勿論「マイクが来たなら微笑んで十八番を一つ歌うだけ」でしたが。先生の後には「すごい男の唄」が続きました。「あんたが一番私が二番」と。

大洲のある山の上の家の宴席のことです。「先生、今まで生きてきた経験を振り返って人生とはなんですか」と柴田先生に質問した人がいました。

先生は「それは人の縁ですよ。いろんな人に出会えて助けられてきた縁があって今の自分がおる。自分の力なんてさほど大したものではない」と。

願はくは花の下にて春死なん その如月の望月のころ 西行

柴田先生も弘二先生も好きな西行の歌です。よく二人で尊厳死の話をしていました。

「自分の肉体の行方をしっかりと見定めた彼は、間もなく、その願いを安らかに遂げた。」（小林秀雄「西行」）

今年、松山の桜は3月15日に咲いた。

最後に、柴田先生は、最期の地神戸に感謝し、「こうべ医療者応援ファンド」への寄付を勧めておられたこともお伝えしておきます。

今後は、柴田大法先生が築いてこられた教えを継承し、地域医療に貢献できるよう職員一同努力していきたいと思っております。心からご冥福をお祈りいたします。

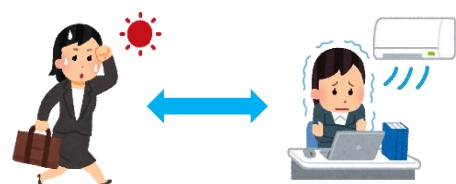
《 栄養だより 》

老人保健施設フレンド管理栄養士 神野愛子 こうのあいこ

暑い日が続きますね。暑さのために体がだるい、食欲がわかない、疲れやすい…そんな夏バテの症状が出ていませんか？今回はこの夏を元気に乗り切るためのポイントをいくつかお伝えしたいと思います。

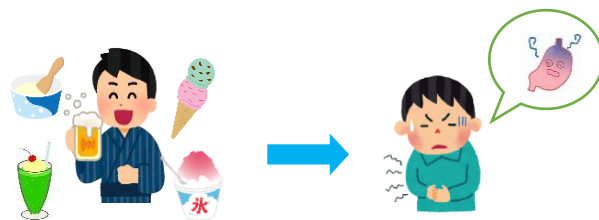
★冷房の使い過ぎに注意する

暑い室外と冷房の効いた室内を行き来する温度変化の激しい環境下にいると自律神経が乱れ、疲れがたまりやすくなってしまいます。冷房を使って室内を快適な温度に保つことは大切ですが、冷やしすぎないように注意しましょう。



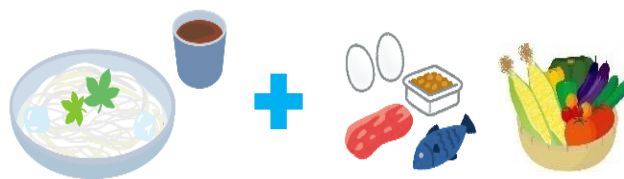
★冷たいものばかり飲食しない

夏になると冷たいビールやジュースを飲んだり、アイスやかき氷を食べたりする機会が増えてくるかと思います。暑い中、飲んだり食べたりする冷たいものは、口の中を冷やし、ホッと一息つけるものなのかもしれませんが、しかし、冷たいものばかり摂りすぎると胃腸が冷え、下痢や便秘、胃もたれの原因となってしまいます。体のためには、常温のものを摂るという選択も必要です。



★栄養バランスのよい食事を摂る

夏バテで食欲がない時、食べやすいからとそうめんだけ食べて、他のものは食べていないということありませんか？これでは炭水化物に偏った食事になってしまいます。夏バテ防止のためには、意識してタンパク質、ビタミン、ミネラルを摂ることが必要です。そうめんには肉や魚、野菜のおかずを加えるようにしましょう。



★適切な水分補給を行う

暑い時期の水分補給は「早め」「こまめ」を意識して行うことが大切です。のどの渇きを感じたときはすでに水分不足が始まっています。「早め」「こまめ」に水分を補給し、水分不足を防ぎましょう。



※心臓病や腎臓病などで水分や食事の制限が必要な場合は、主治医の指示に従いましょう。

第25回愛媛県理学療法士会学術集会 奨励賞受賞

みやわきゆうま

当院の宮脇勇磨理学療法士（訪問リハ科）が、令和3年3月14日に開催された第25回愛媛県理学療法士会学術集会（WEB開催）において奨励賞を受賞し、6月13日に表彰されました。発表演題は「健康まつりで会場設営する上での現状と課題」

宮脇PTコメント：「介護予防事業やイベント等に出向き、集団で運動指導をする際、安全性を考慮した環境面の検討は重要です。参加者の多くは積極的で、元気で過ごしたいという気持ちが強い方です。健康のための体操も、時に転倒骨折に繋がる危険性もあり、集団で行えばなおさらです。そのため、リスク管理の1つとして適切なスペースの確保などの環境設定が重要ではないかと考えました。今回は内子町のイベントである健康まつりでそれを実践し、その結果を学術集会で発表しました。」

リスク管理を考慮することで、安心して体操していただくことができ、効果も高まります。今回の経験を活かし、今後の活動も質の高いものを提供できるよう努めていきます。」



健康まつりの様子（共生館）

「内子町健康まつり」は毎年9月に実施されています（内子町主催）。加戸病院からは、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士など多職種がスタッフとして参加しています。



外来担当医のお知らせ（2021年7月1日～）

受付時間：午前8時30分～午後4時30分（土曜日は午前11時30分まで）

お見舞い・面会時間：現在、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、原則面会禁止とさせていただきます。

※期間限定でオンライン面会を実施しています。詳細はお問い合わせください。

診療科		月	火	水	木	金	土
内科	午前	平澤 中坊	中坊 渡部 <small>（第1のみ）</small>	平澤 中坊	平澤 中坊	平澤 行本	平澤／東 淡野 <small>（3回/月）</small>
	午後	平澤・中坊 <small>（予約のみ）</small>		平澤・中坊 <small>（予約のみ）</small>		平澤・行本 <small>（予約のみ）</small>	
外科	午前	下田	加戸	下田	加戸	下田 小川	加戸
	午後	下田 <small>（16:30～）</small>		加戸		小川	
整形外科	午前	城戸	城戸	城戸	城戸 <small>（予約のみ）</small>	城戸	
	午後	城戸 <small>（16:00～）</small>					

※ 手術などのため、変更になる場合があります。

※ 糖尿病内科を月に1回（原則第1火曜日[祝日の場合は第2火曜]の予定）午前中に愛媛大学医学部附属病院 渡部医師による診察を行っております。8月3日、9月7日、10月5日に診察の予定です。

※ 火曜日の午前中に子宮がん検診を、城戸美穂医師（女性医師）が実施しております（予約制）。

当院は敷地内禁煙を実施しています。ご理解、ご協力をお願いします。

